

中村俊定文庫
文庫 18
755





門松 収る 子 牛 也
 三仙 三十六 句 公 好 子
 如 之 附 句 好 公 之 子
 よ 々 々 々 々 々 々 々 々 々



七山雅俊



目とちしひの月公御
守るるさしるるは
はぬまをかの田無子
草と物さの世に
かちらばまよふ
境

お心のねふ背あ
為とぬまを
木子のさるる
半世と公物

ふ化七年のし

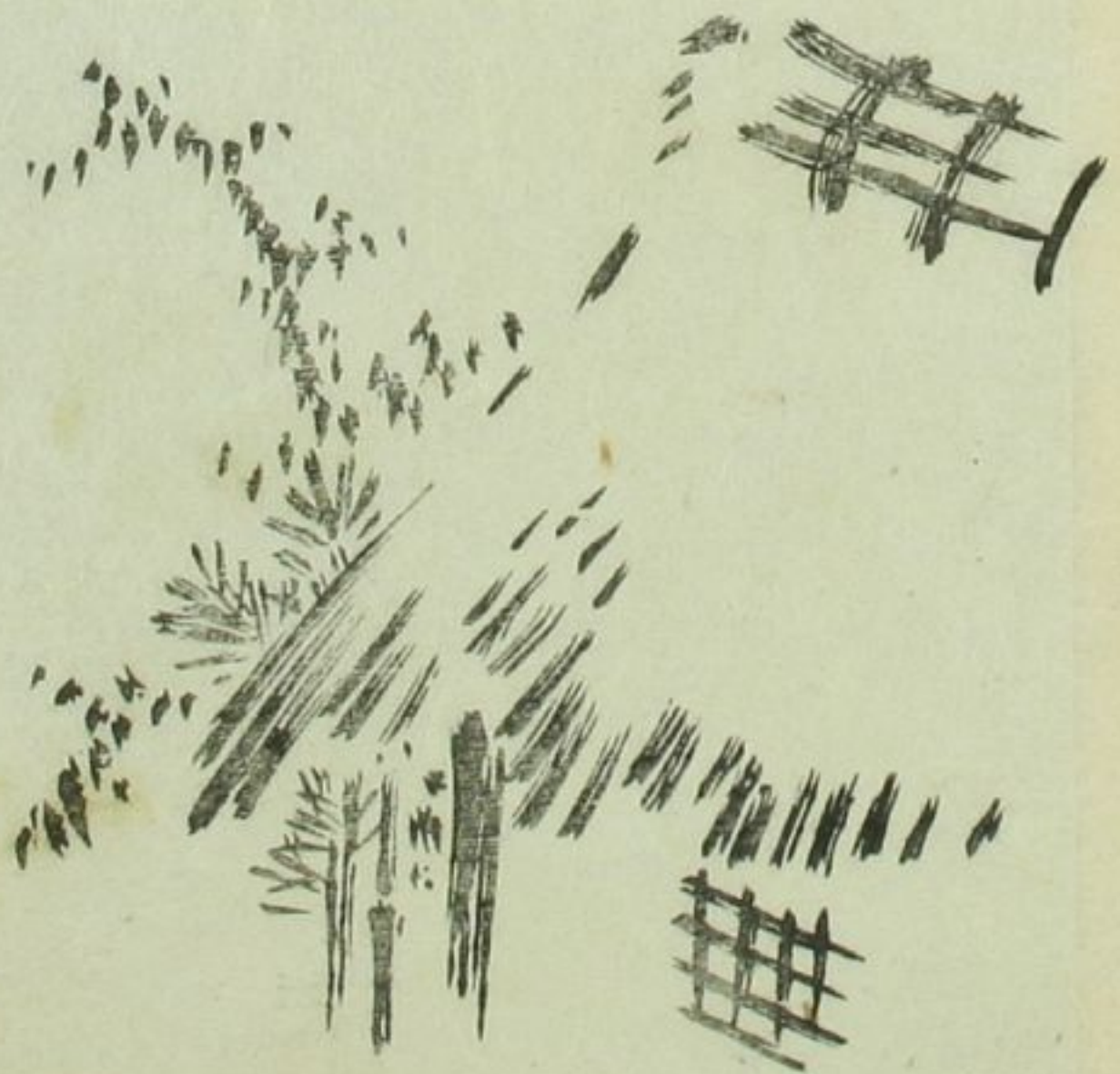
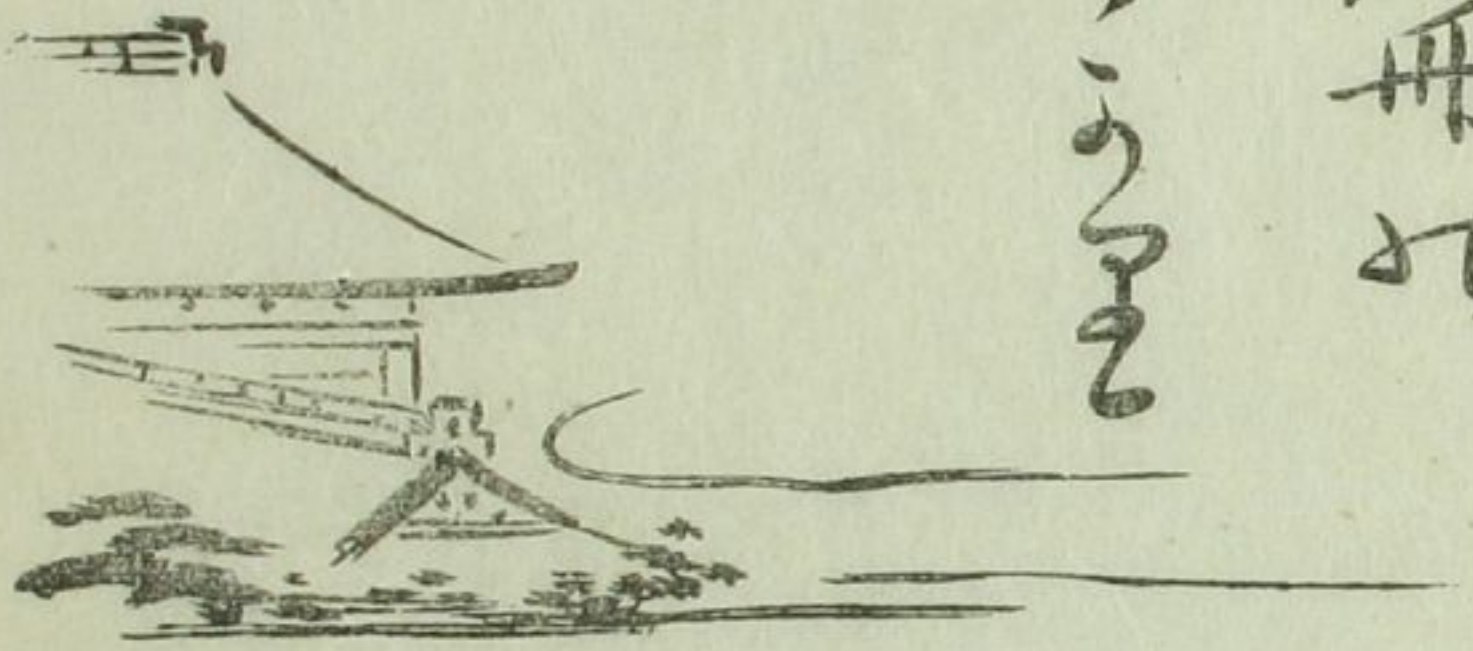
しんせき

と川

梅とあまのこ

赤土の梅

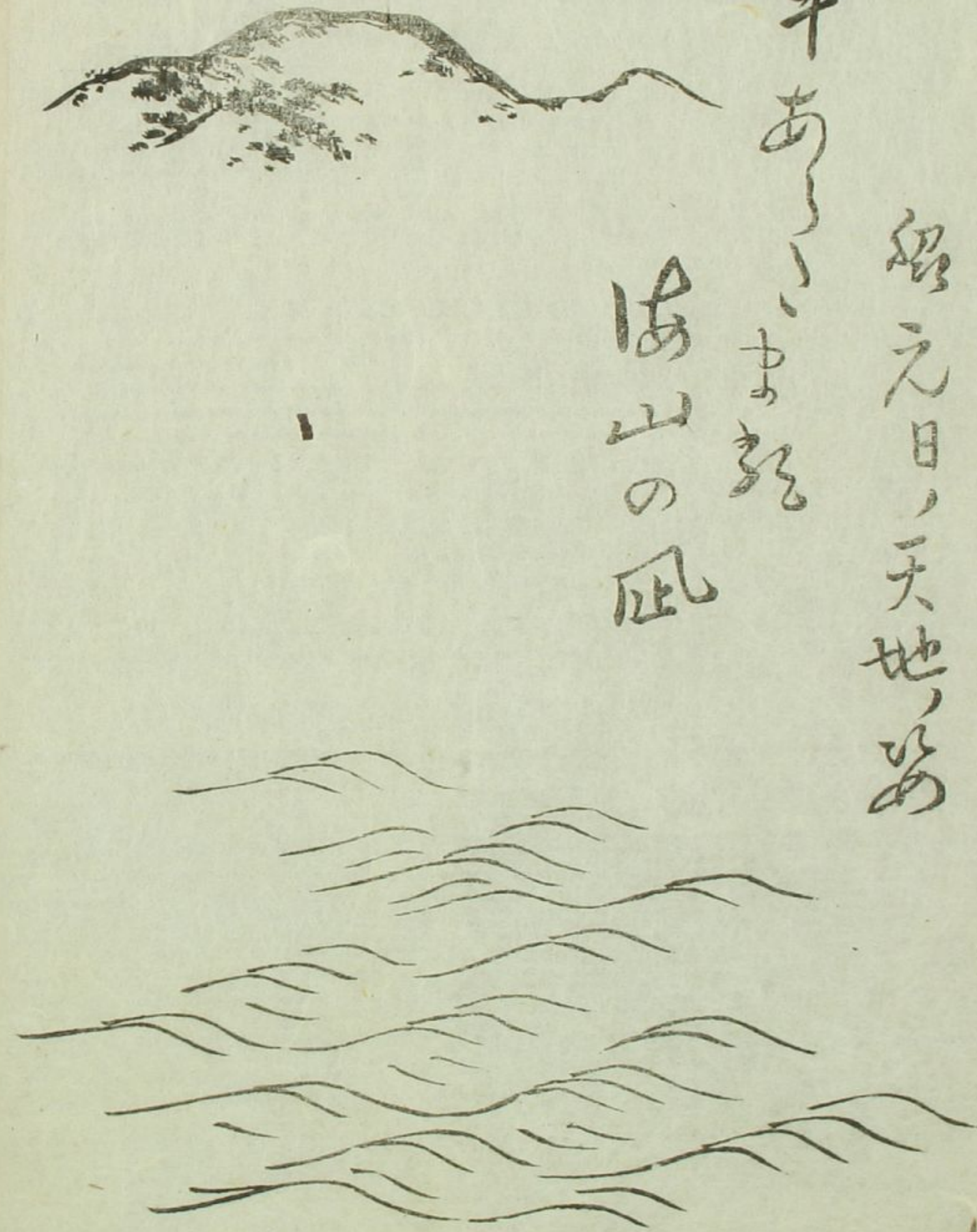
いっしん



紹元日、天地、あ

と年あ、ま

海山の風



才三一轉ノ人

子信等々

子あ長み

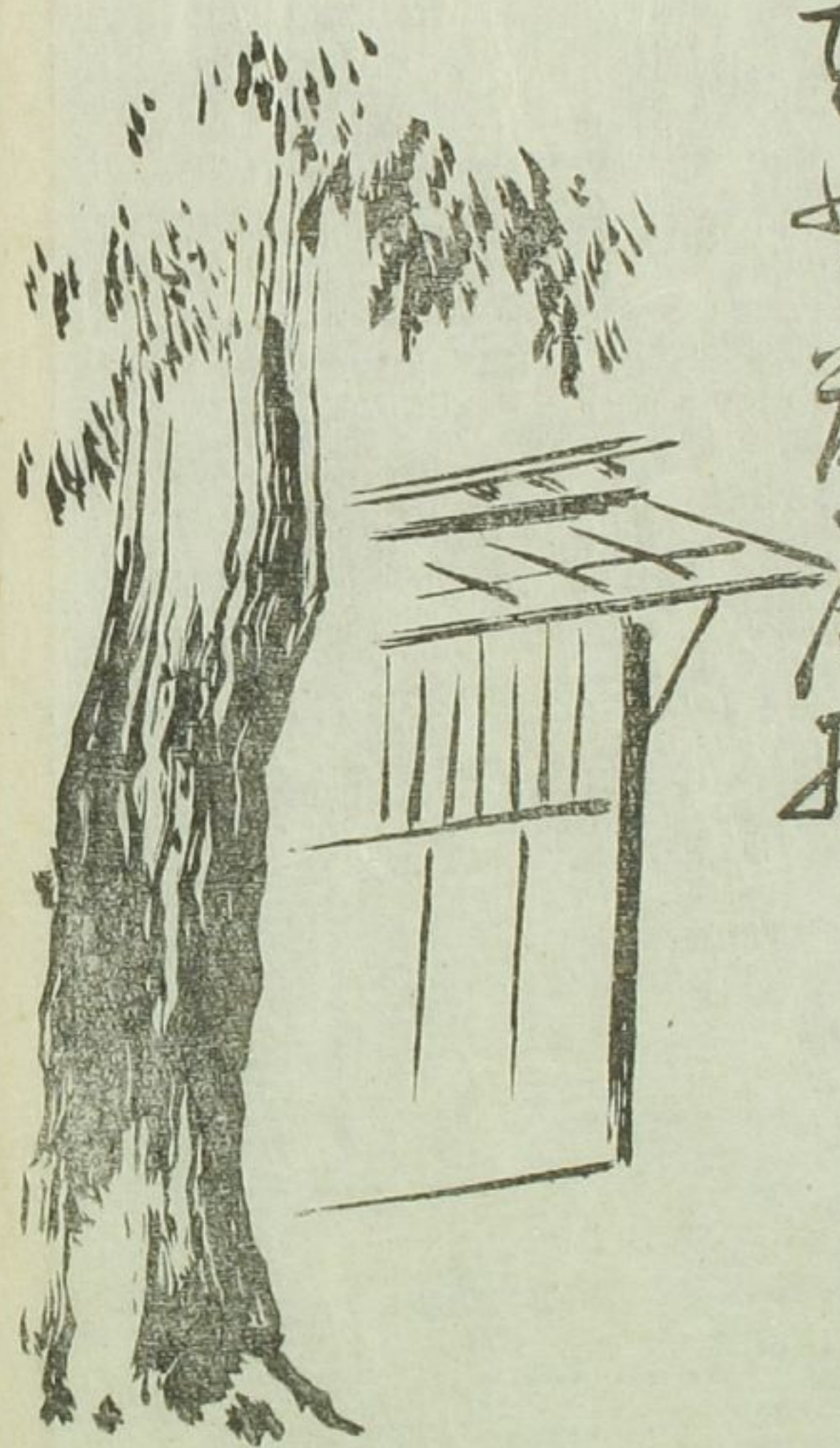
七系よそ



子々の変化は家
鞆の面はかる
杵目

坊の糸を

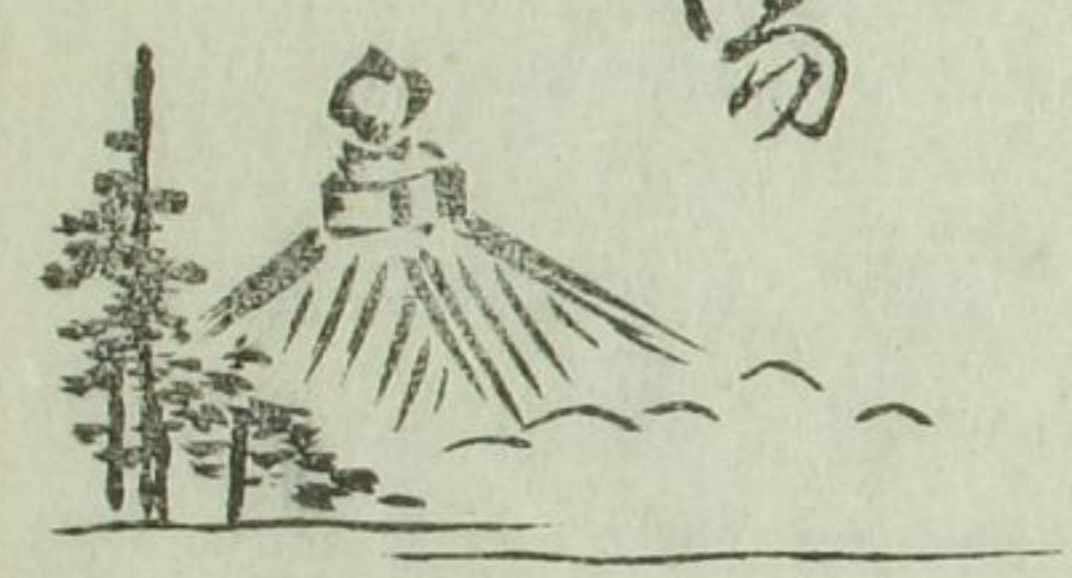
あそび榎の
あそび月夜



坊の変化
田家

塩
刈
啼
る
下
の
糸

あそびの坊
上のた子

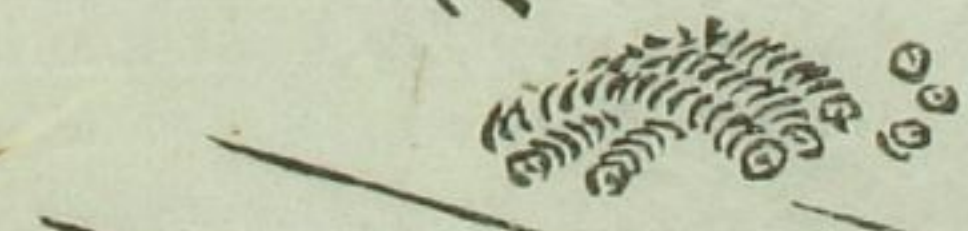


ち子ノ子ノ用ノ時
ふく以上のた子此
後買ん

あまの風情

高
たのりか

ちよしと
あま



あまの如き
去り



あまの如き
こと

あまの如き



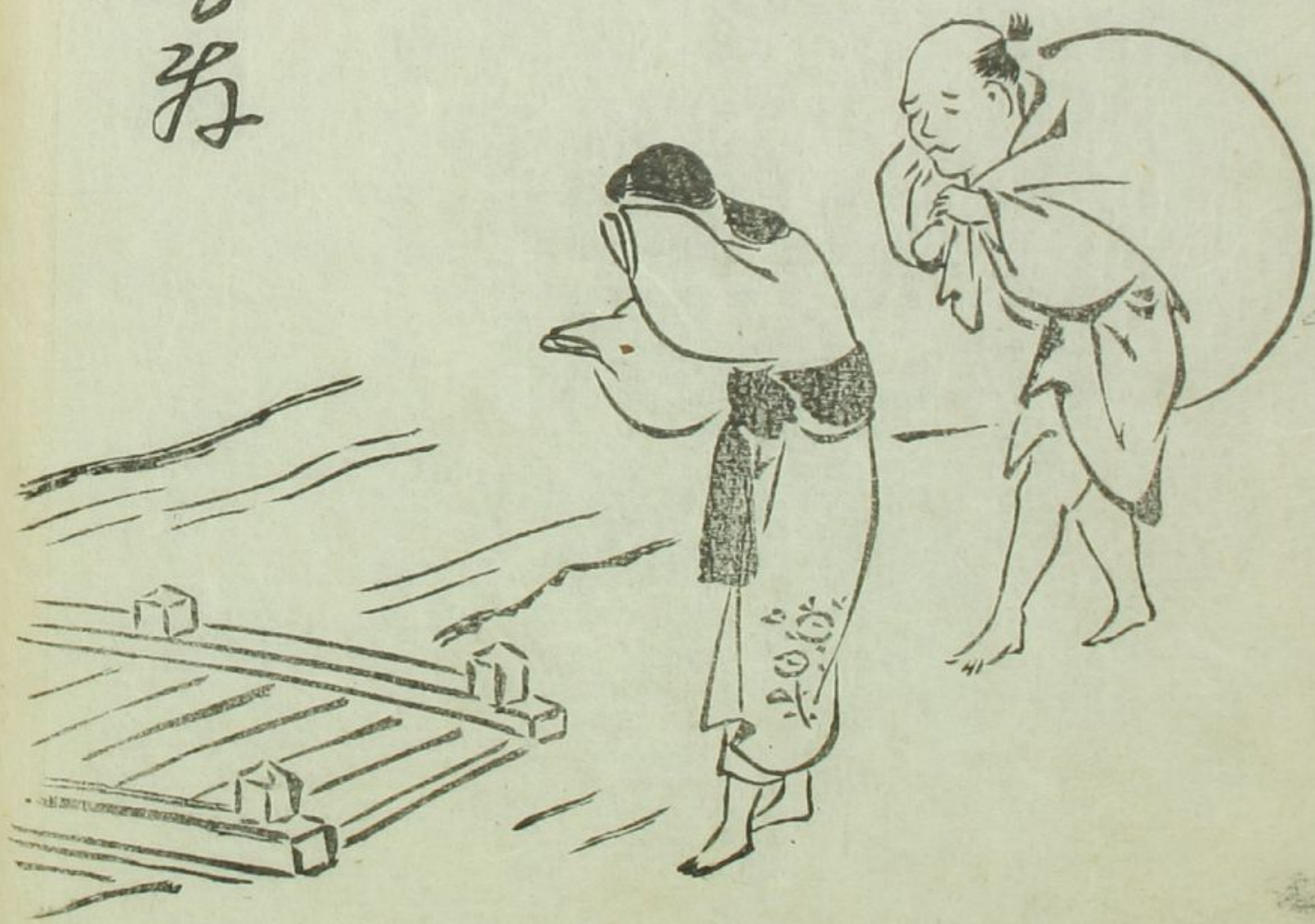
伸ヒノ時
 何一

一人のほめ
 化

何の小橋
 化

小橋の
 化

幼女
 橋の下
 化



さるノ居不ノ

変化

木葉をけす者

物とせむ

その内ノ亦る化

途降

知詳人子

伸上る人



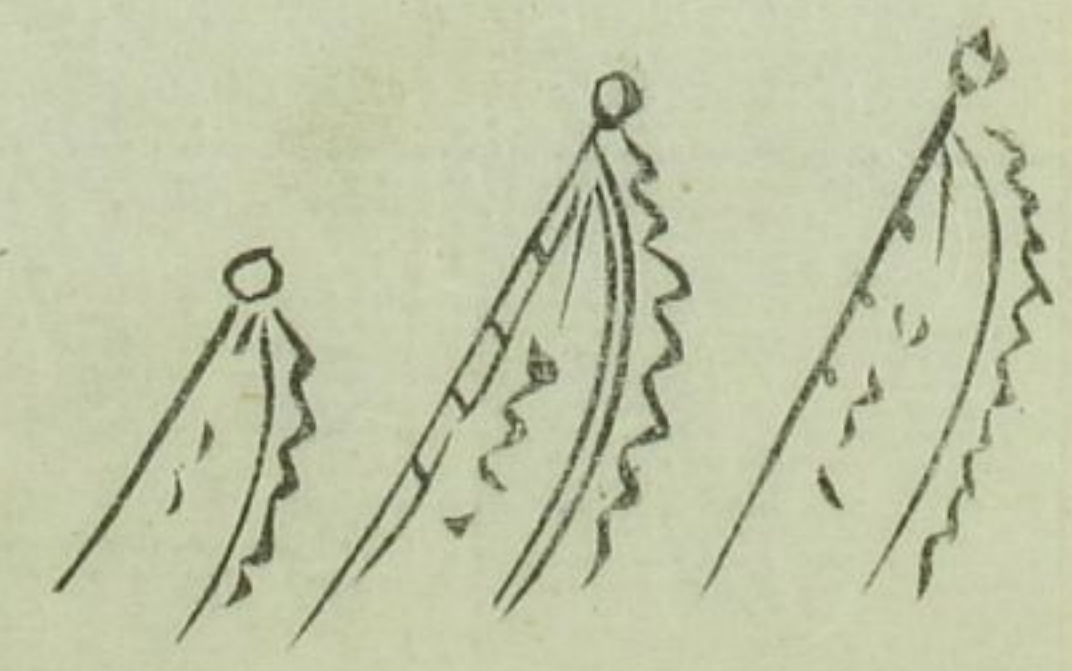
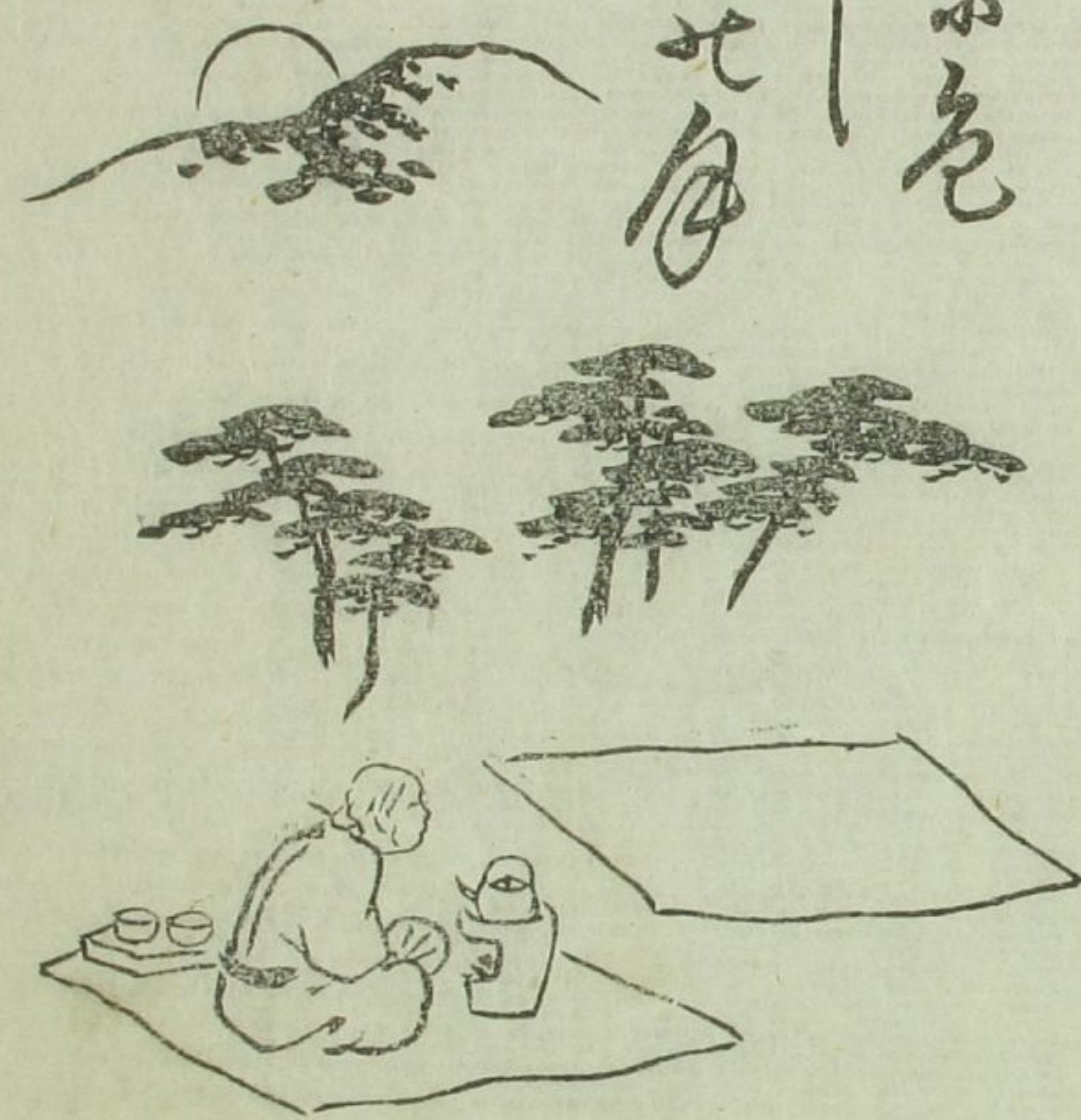
亦其ノ坊勿

松原の茶を白く下す

糸色

さるノ居不ノ

山の傍に舟

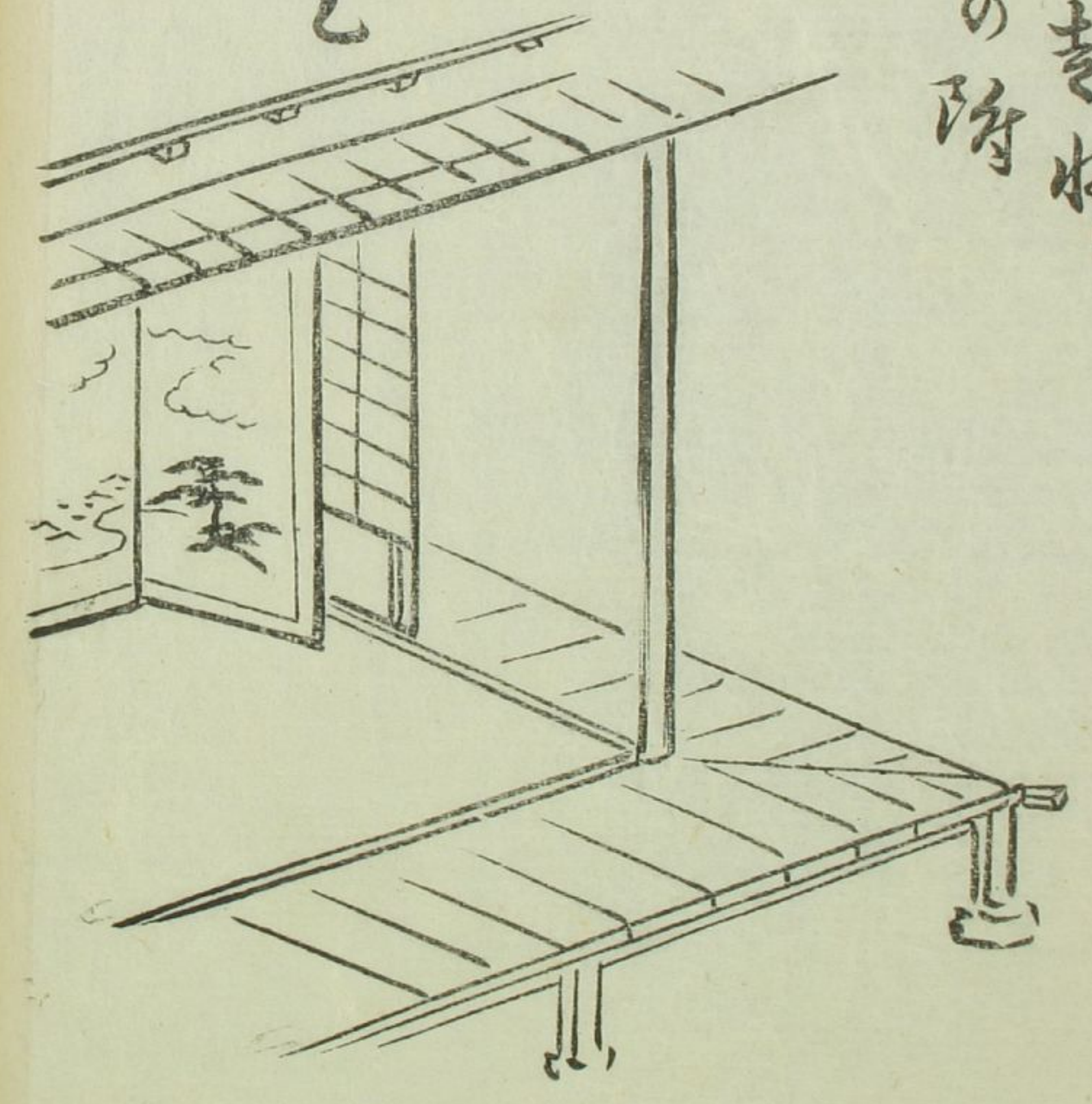


山の塔に起つ
居不用の階

源氏結の

屏風か

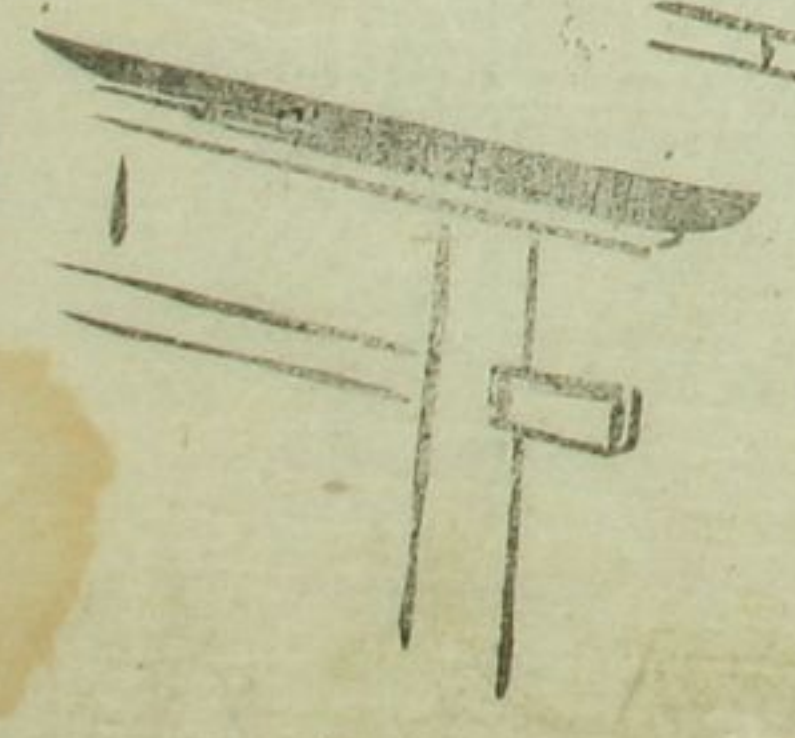
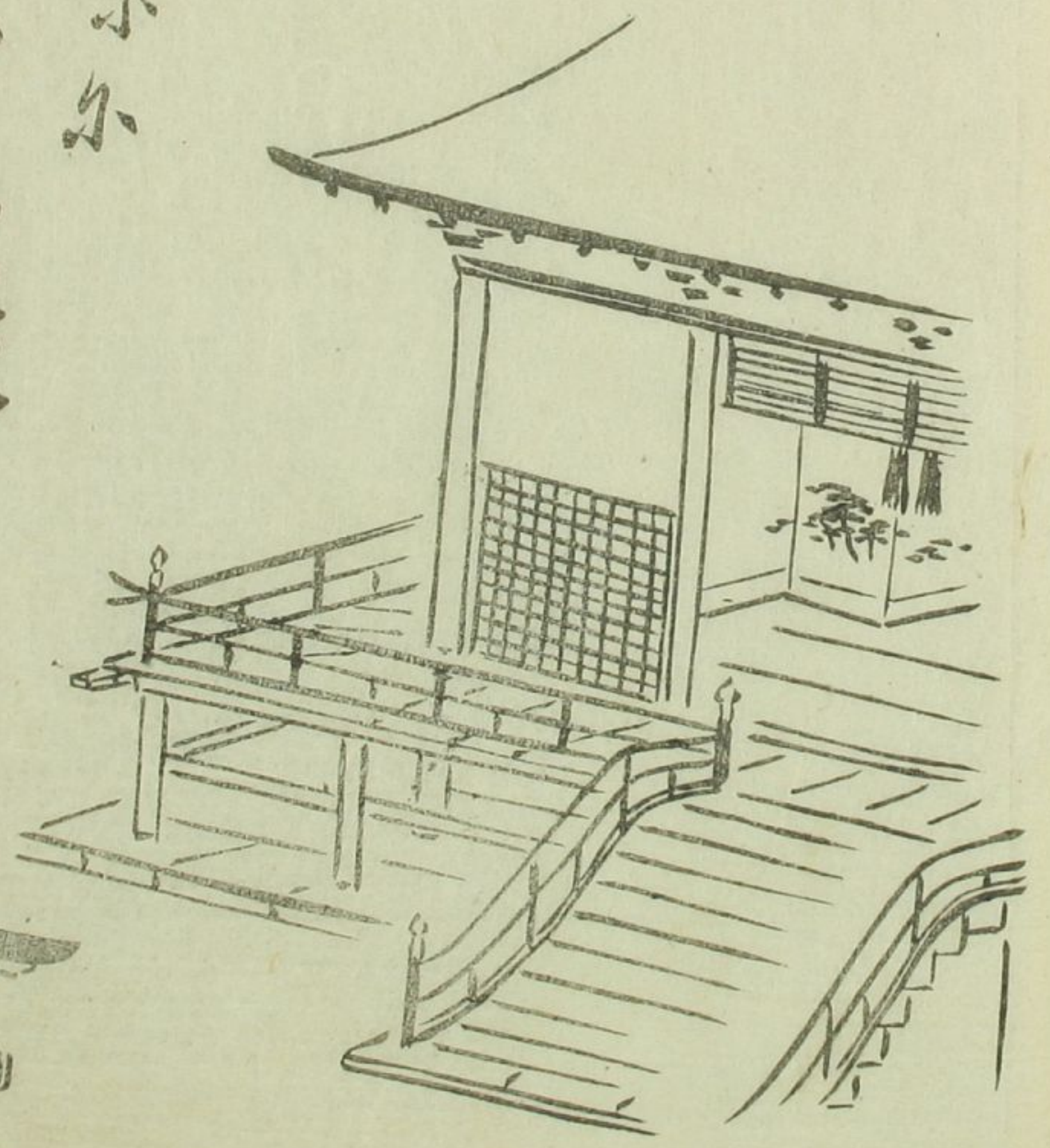
折
風
道



奈風の
高まじ
小おま社北
まの階

小
おま北
係尔

併の
喰
儘



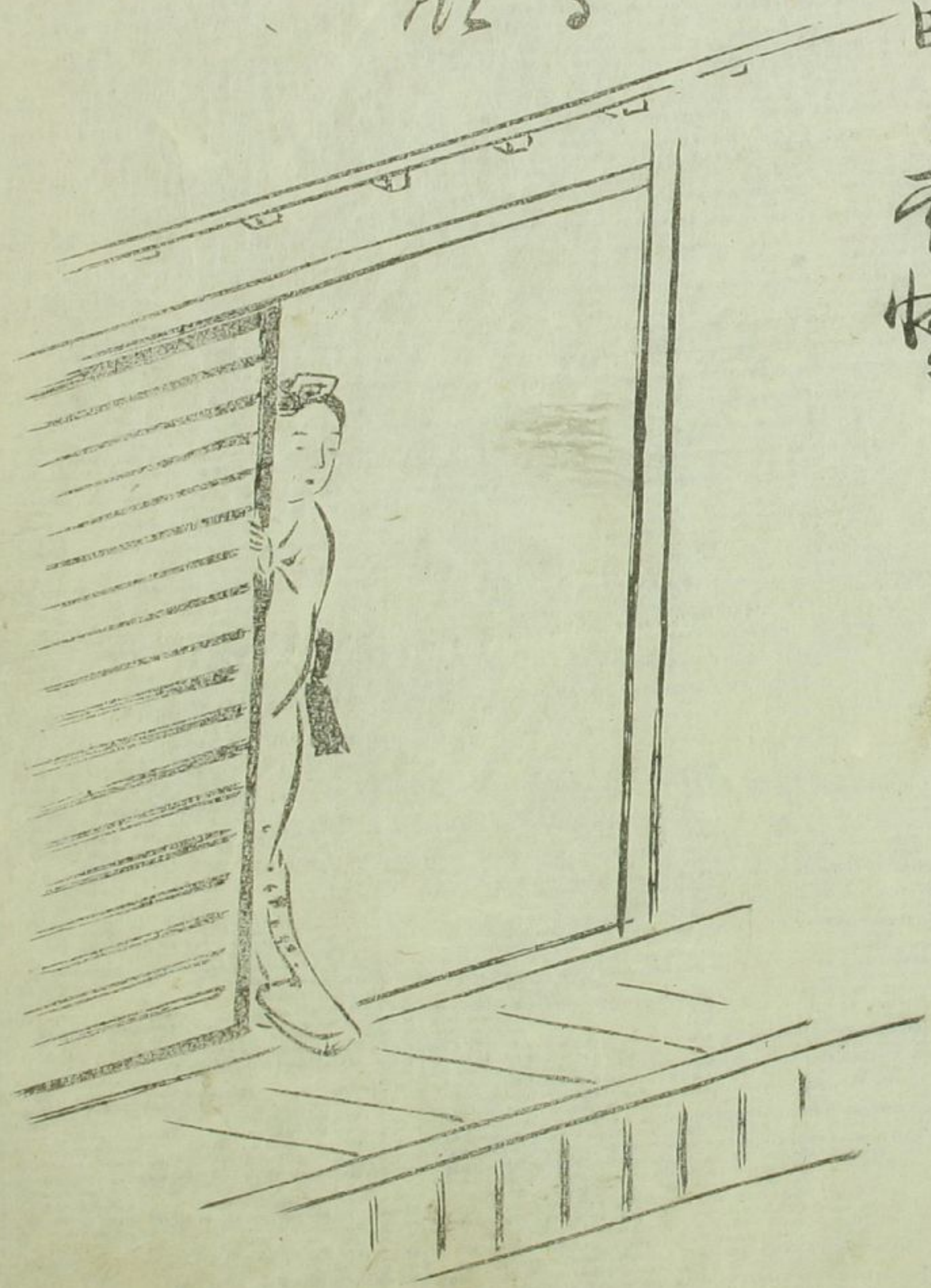
子場の
 子馬の
 一匹
 毎子
 子馬の
 子馬の



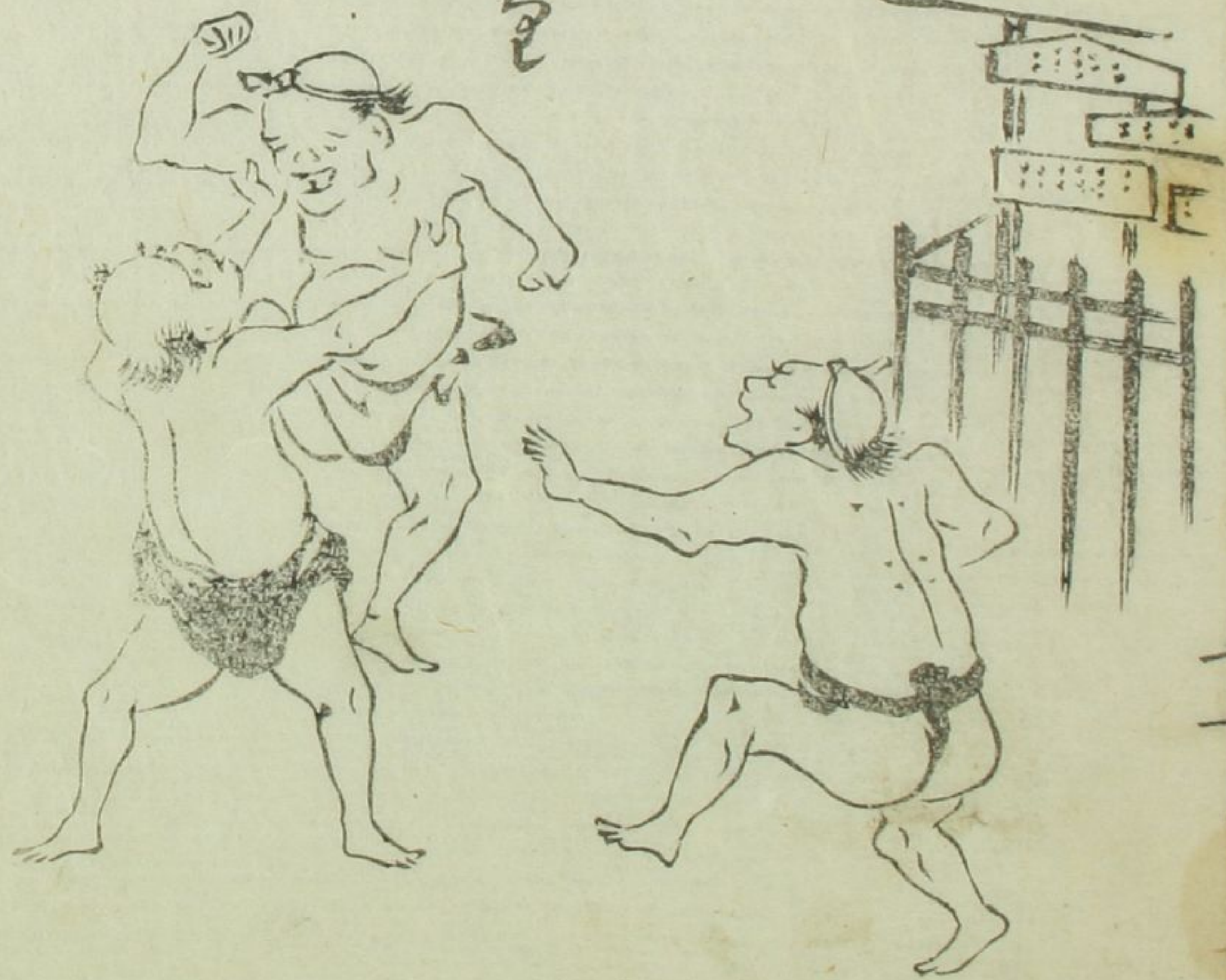
子馬の
 子馬の
 子馬の



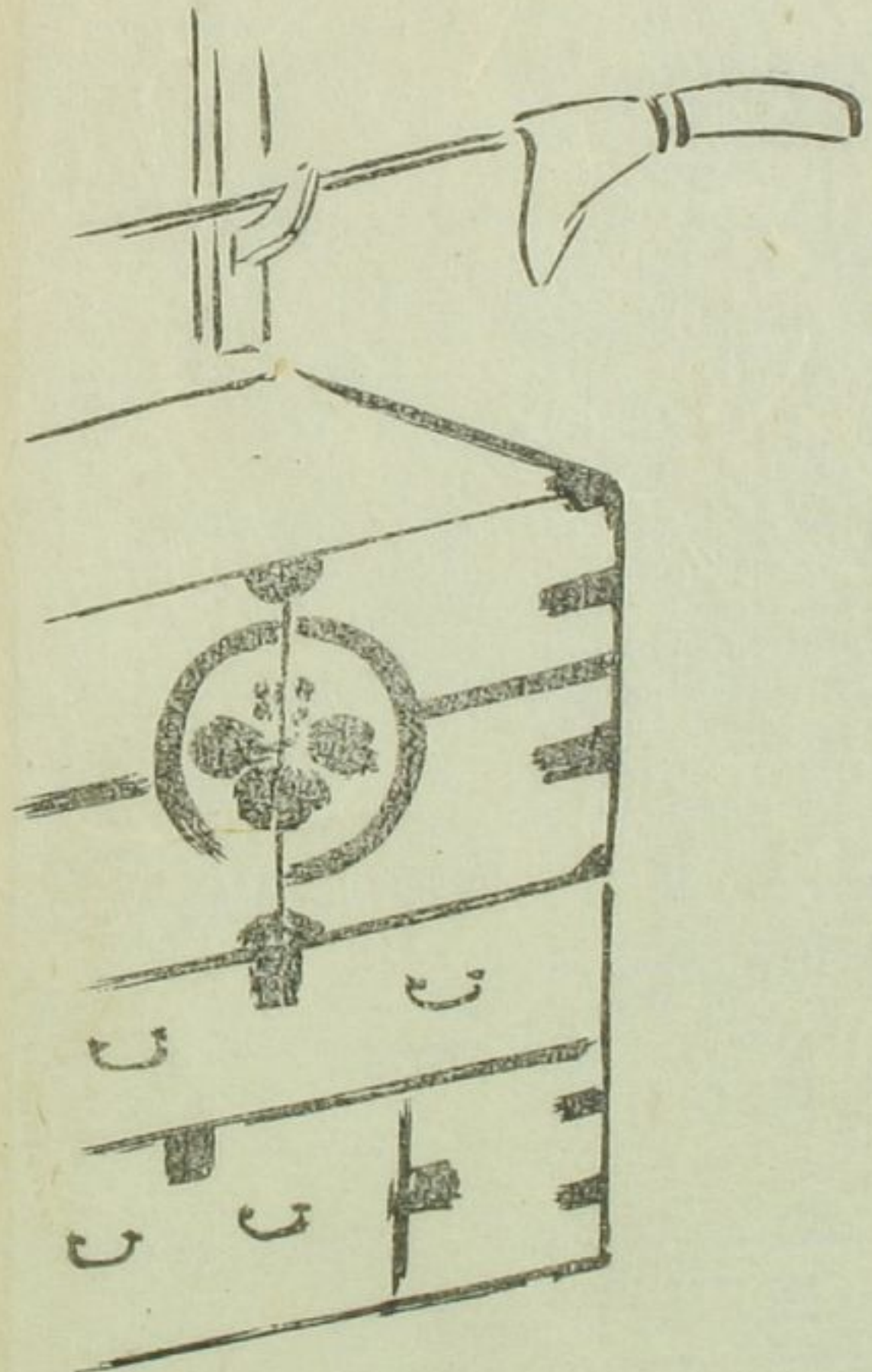
おい
 さん
 さん
 大は、町、の、お、塔
 大は、の、お、塔
 大は、の、お、塔



大は、の
 お、塔
 お、塔
 お、塔
 お、塔
 お、塔



三つ子目の上よ
 みるに成た
 かくるも刀

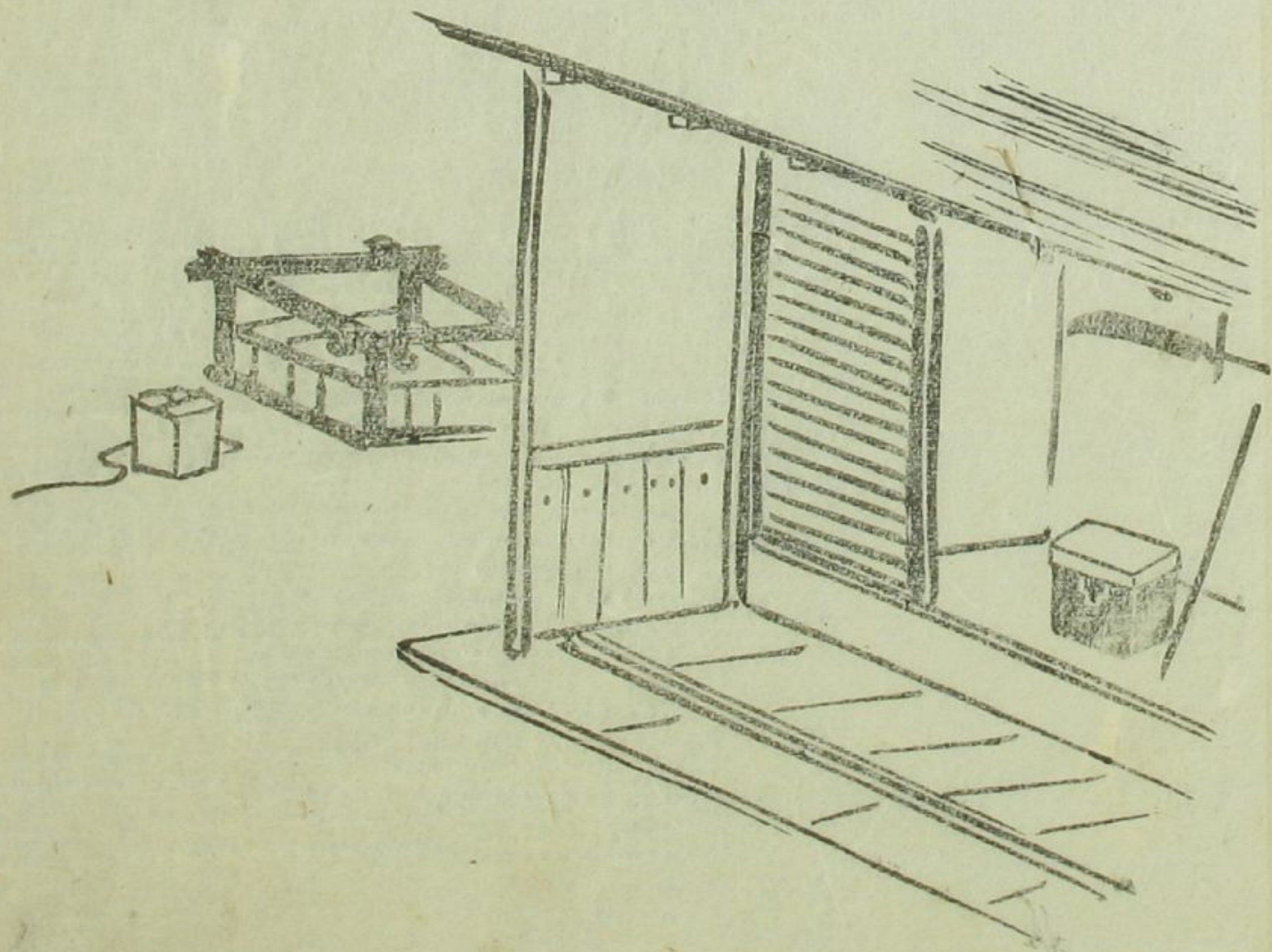


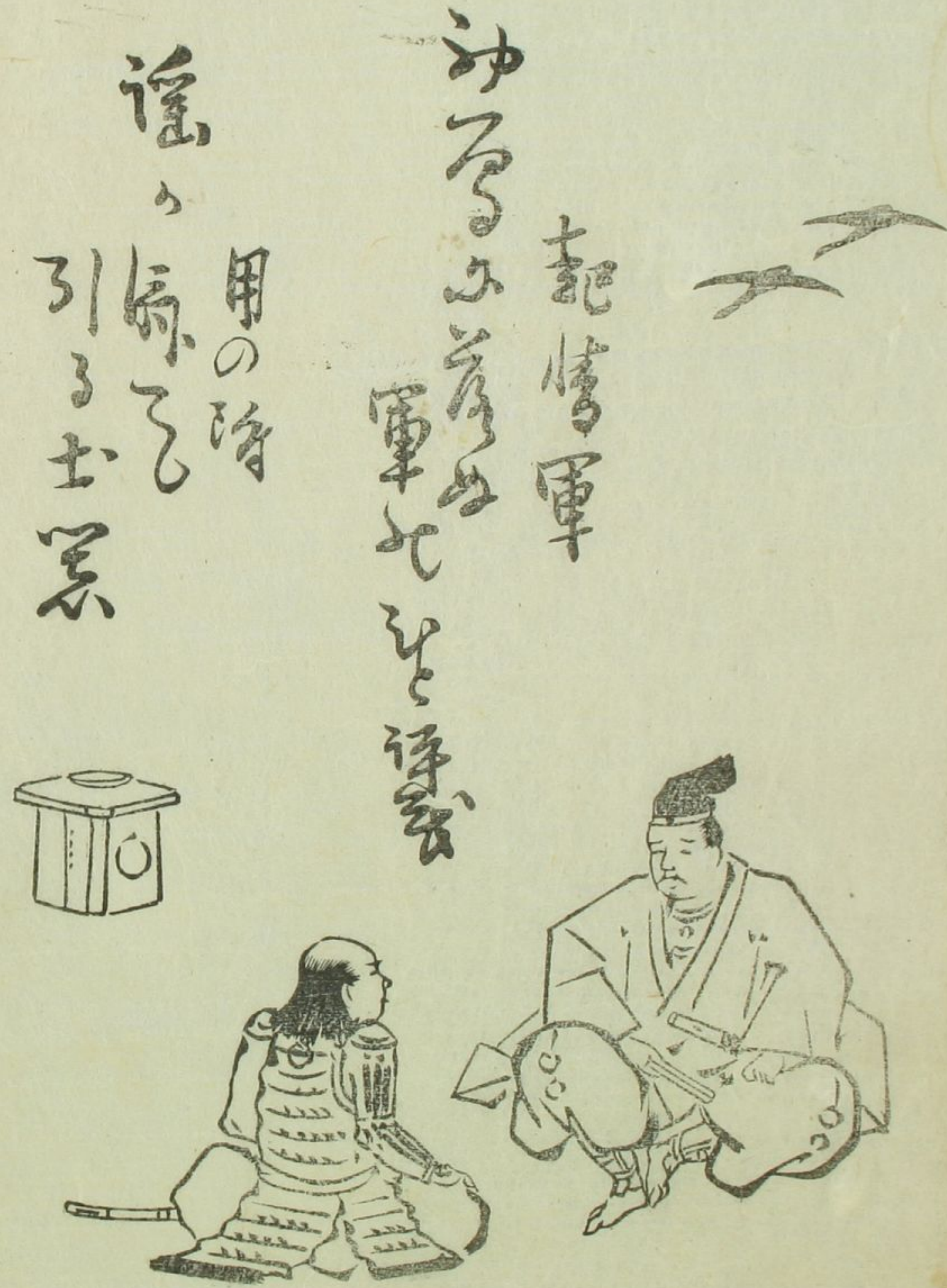
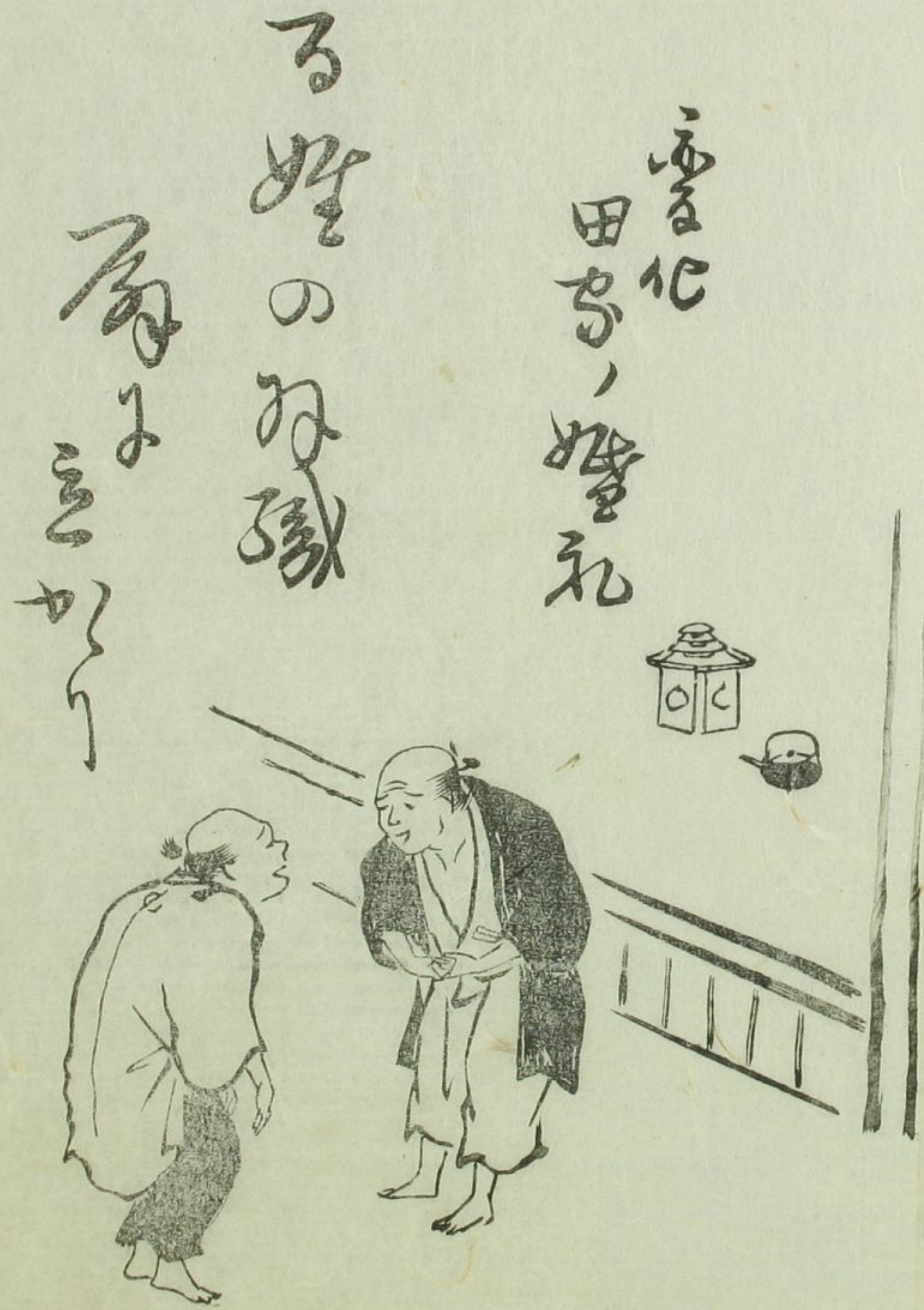
みるに
 医者者

小あしは掠奪
 浅く井えの
 ころ

場の
 みるに

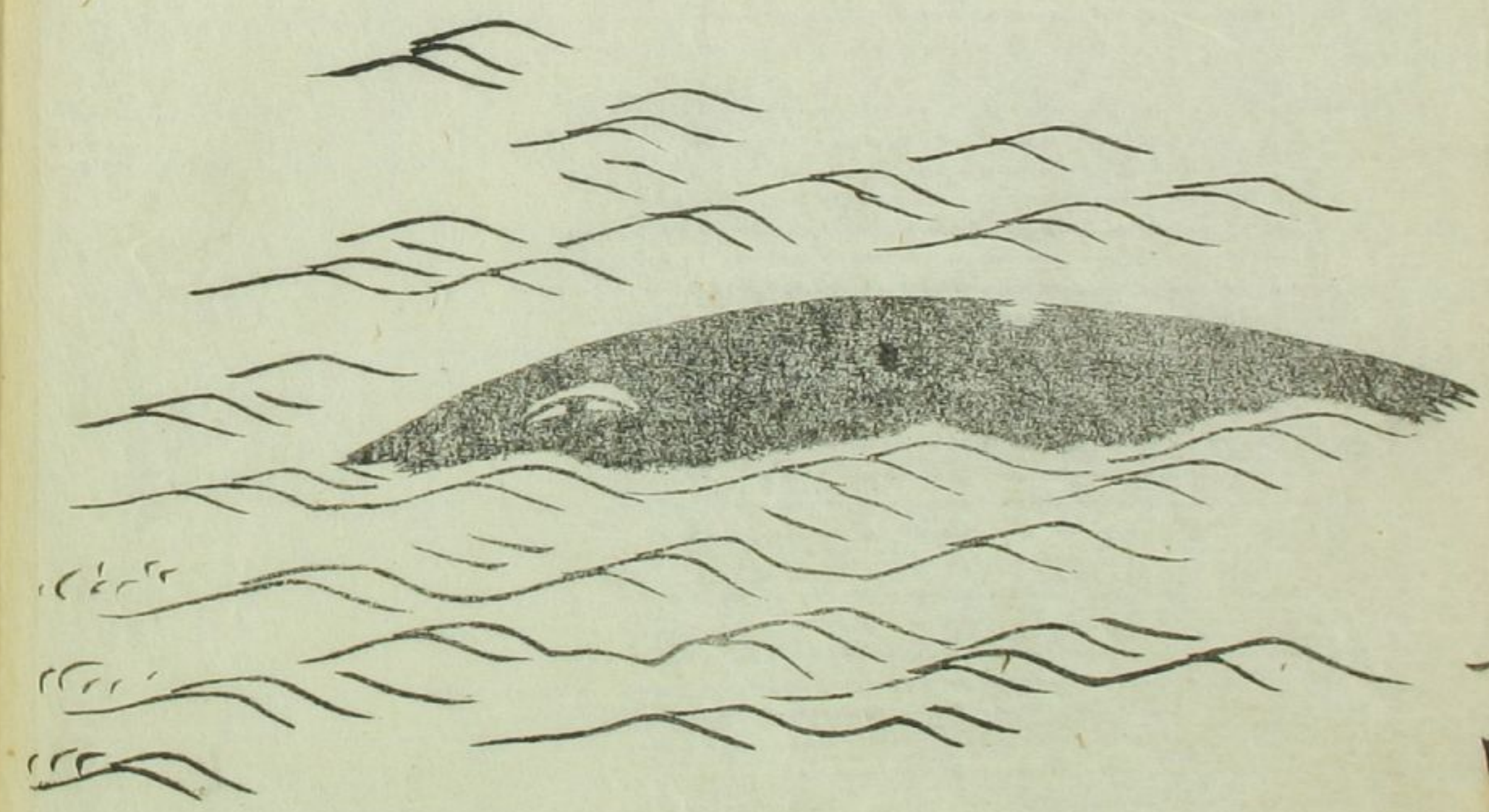
みるに
 自し
 みるに
 西





人、
安、
変化

廿五日此
録、
録、



場ノ時

うちくさる
木の根

持、
葉、
此

あつしと



木を焚く

赤土を穿入



之を子轉也

を穿りて



肉子入き

赤土



かきし
赤土を穿りて
肉子入き



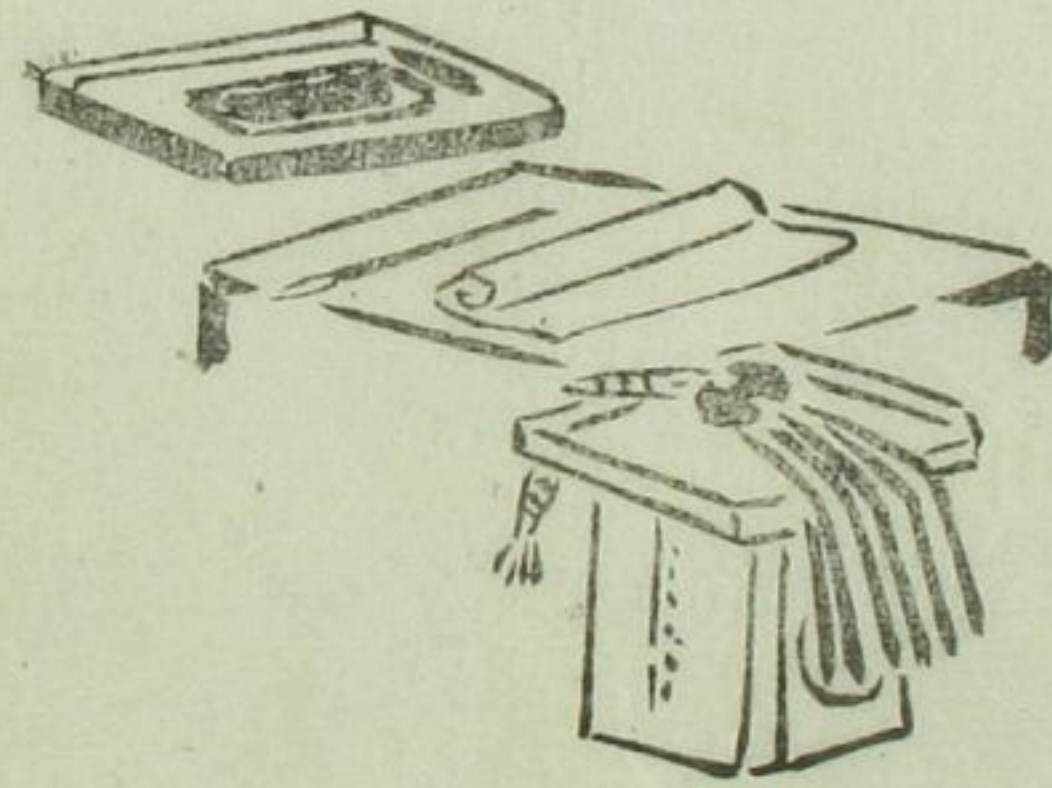
祝ノ意化

市中ノ書物

尉方年の

押ノ如

丁度分細



幼穉や若士の無礼いささか
 年あつこゝある。海山の風
 子立等此等好むとせ閑は
 鞆も面もうゝおねお目
 ちよとてぬ標のたは片身扱
 中切唱るおまゝの菜の下
 書 書 書 書 書 書

以上の子は後買乞 全
 庚をとりかちまゝと扱急 也
 穀をばれを元霄に儲り 也
 仔の小梅もゆきさし先 也
 幼を梅の梅に下をみ 也
 てもりて個一さるのあ 也
 木葉をけ末柄と著し 也
 朝祥人の伸上る人 也

松原の煮豆匂ふ下を 也
 己をいひし山の落れ 也
 原付路の奔るに社の御 也
 十少おし線平餅乃味 也
 川をさそ梅しの汁と昔 全
 也、大小とも好ま 也
 節をあらびぬゆら杜 也
 子と扱る程の字も 也

おのりしむるに依る

中のふらふらある如しおのり 白塔

一と、の帆お構らふらむる 書之

以上此中のとらふらむる 全

新敷しよと日しむるに 志學

或人のとらむるは 巨舟

堀川のたしむるむる 笠山

子規橋枕をりしむる 月舟

此の人をいふとすむる 棧

かゝる人といふ男の子は 証筆

かゝる人といふ男の子は 桂二

新敷しよと日しむるに 牛名

或るかゝる人といふとすむる 巨舟

此書係
明倫彙編
家範典
孝行典
卷之六

長山雅俊

藏

...

